



幸せへの願いを紡ぐ パワースポット

八つの神様を 地元の人々が 大切に 守ってきました

和水町ふるさとガイド
会長 本田ケイコさん
ほんだ けいこ



退職後に地域の歴史に興味があって、町役場が開催した郷土史講座を受講したことがきっかけで『八つの神様』のふるさとガイドに。優しい笑顔と話し方が素敵なガイド歴10年のベテランガイド。

幸せになりたい、健康でありたい。人々の願いは時代を超えて普遍的なもの。有明・島原地域には、たくさんのキリスト教信者たちが一心に祈りを捧げた数々のキリシタン史跡や、古くから伝わる寺社仏閣、地元の人たちが大切に守り継いできた信仰の対象、あるいは五穀豊穡、無病息災を願って行われる祭りなど、多種多様な「祈り、願いの場」がある。最近、新しく人々のクチコミで広がっている「パワースポット」と呼ばれる場所もある。体の場所ごとに病気を治すと言い伝えられてきた「八つの神様」は、長い間、地元の人のみが知る存在だったが、評判が広がり、近頃では遠くから参拝者が訪れる。江戸時代から魔除け、厄除け、豊作を願って行われてきた「大蛇山」と呼ばれる祭りは、今では地域の人の心と心をつなぐ拠り所にもなっている。

心の平穏、健康、恋愛祈願、大願成就など、有明・島原の「願いの場」「パワースポット」の「効力」はバラエティに富んでいる。幸せを願った古の人々の想いを感じながら、有明・島原の巡礼の旅に出てはいかがだろうか。

玉名郡和水町にある目耳、歯、手足、イボ、胃、性、腰命の「八つの神様」。古いものは800年前から伝わるこの地域の守り神だ。健康や安全を祈り、守り伝えた信仰には、この土地が歩んだ歴史や人々の願いが込められている。



「もとはこの耳の神様は、400年ほど前の肥後国衆一揆の際、近くに田中城を攻めに来て耳が不自由で家来の声が聞こえず討ち死にした、柳川由布大炊助の墓石です。この土地の人は敵将でもお祀りして、優しいですよ。」

お堂の中にはたくさん火吹き竹が奉納され、現在も信仰されていることがわかる。

「耳の穴に火吹き竹で息を吹くと空気の通りが良くなるでしょ？それで火吹き竹を奉納しているんです。でも最近はずっとおる」に掛けて受験などの合格祈願に来られる方もいますよ」

「数百年前に暮らしていた人々にしたら、医療はおるか交通でさえ困難だったと思います。日常の暮らしの中で自分や家族の健康、安全をこの神様たちにお祈りして、ずっと伝えてきたんです」

今ではパワースポットとして注目され若い人も訪れる『八つの神様』。本田さんなど地元の人々の力により、山里の祈りの歴史が次世代に繋がっていく。

お問合せ

和水町三加和総合支所

TEL 0968-34-3111

雲仙市



愛野駅

雲仙愛の聖地の名誉本部。かわいい駅舎にはキュービットの矢が。

☎ 長崎県雲仙市愛野町乙555-1
☎ 0957-36-3911 (雲仙市商工会)
📍 有 ☎ 有

大蛇山は 人々の心の支えなのです



なんかん大蛇山振興会 八剣会
会長 小出祐二さん
なしかぶ ねいじ

『大蛇山』は、熊本県南関町や福岡県大牟田市などに伝わるこの地方独特の祭り。南関町では8月の第1土曜日に『八剣(やつるぎ)神社』の祭典として行われ、蛇の巨大な造り物『大蛇山』が花火を吐きながら街を練り歩く。造り物の一部を持ち帰ると厄除けになると言われる。

「南関ぎおんさんの歴史は、文献などが無く定かではないのですが、現在の大蛇山巡行というかたちは90年ほど前(昭和6年位)からではないかと思えます。祭りの囃子や八剣神社の神文などから、みやま市高田町の『渡瀬祇園祭』での大蛇山の流れを汲んでいるんじゃないでしょうか」
いつしか夏の祇園祭と合わり、無病息災や商売繁盛など人々の願いと共に伝えられてきた。

『夏の風物詩として賑わうこの祭りも、一時は人出が少なくなり賑わいが失われた時代もありました」
「祭りを存続させ賑わいを取り戻すため、他の大蛇山との交流や女性の参加などで今では賑わいも戻ってきました」
「伝統の祭りを守り継ぐために振興会が今から15年前に発足。関町の祭り好きの若手を中心に地域の人々が集まり、小出さんも運営に携わってきた」
「4ヶ月もかかる大蛇山の製作や祭りの運営をベテランと若い人が一緒に行い次の世代へと伝えていきます。祭りの日には南関の人がみんな帰り、現在は約70名の会員が振興会に入り、地域と大蛇山を盛り上げている」

■お問合せ
南関町商工会
TEL 0968-53-0120

愛の聖地、 恋愛成就のスポットが誕生

平成19年(2007年)に『一般社団法人日本ロマンチスト協会』が認定する『愛の聖地』に選ばれた雲仙市愛野町。カップルや良縁を願う男女に向けたイベントが行われ、新たな取り組みが地域の人々を巻き込んで、愛の聖地として注目を集め始めている。

「日本ロマンチスト協会から愛の聖地に認定されているのは雲仙市愛野町だけです。名誉本部のある愛野駅は、隣の吾妻駅と繋げて読むと、『愛しわが妻』となるんですよ」
「協会では、『ジャガイモ畑の中心でロマンスを叫ぶ』というイベントが行っています。また、雲仙市商工会が結成された愛の聖地プロジェクト実行委員会では、愛野駅や愛野教会で応募者に結婚式を挙げてもらう『ロマンクスウエディング』をしたり、愛のパ

「雲仙市のなかで、ロマンスというフィルターを通して小さいものを繋げていき、楽しみ方の提案をしています。地元の方の意識も、愛の聖地としての認知度も高まってきていて、一緒に楽しみながら取り組みたいです」
愛野町の地名が、偶然にも日本ロマンチスト協会の目に止まり始まった取り組みは、地元の人々の力も加わり、訪れる人々と良縁を結んでいる。

■お問合せ
雲仙愛の聖地プロジェクト
実行委員会事務局(雲仙市商工会内)
TEL 0957-36-3911

日本ロマンチスト協会
ロマンス宣教師&理事

柴田英知さん
しばた ひろし



雲仙市職員の柴田さん。観光の部署にいた時にロマンチスト協会のイベント『ジャガチュー』に携わり、離れた今でもプライベートで活動が続ける。商工会が組織した『愛の聖地プロジェクト』では、多彩なイベントやゆるキャラ『あいのん』を使ったPRを行っている。

雲仙市

橋神社 (橋公園)
境内の橋を手をつないで渡ると幸せになると言われる愛の聖地。
☎ 長崎県雲仙市千々石町己529
☎ 0957-37-2538
☑ 有 ☑ 有

雲仙市

岩戸神社
老杉が静かな佇まいを構える水源の森。神秘的な力が宿るパワースポットとして人気。
☎ 長崎県雲仙市瑞穂町西郷丁
2322番地 ☎ 0957-38-3111
(雲仙市観光物産課) ☑ 有 ☑ 有

大牟田市

新大牟田駅観光プラザ
通常は祇園祭でしか見られない大蛇山を常設展示している。
☎ 福岡県大牟田市岩本2509-3
☎ 0944-58-2216
☑ 有 ☑ 有

南関町

八剣神社
京都八坂神社の末社で、大蛇山が練り出す南関ぎおんさんが行われる。
☎ 熊本県南関町 ☎ 0968-53-1111 (南関町まちづくり推進課)
☑ 有 ☑ 無

和水町

八つ神様ご利益めぐり
目、イボ、胃、性、腰、歯、命、耳、手足の八つの神様が町内に点在。
☎ 熊本県玉名郡和水町
☎ 0968-34-3111 (和水町三加和総合支所) ☑ 有 ☑ 無



自然、大地の教えに習って 健康になる、キレイになる

豊かな自然、豊かな食、温泉、この3つが揃う有明・島原は健康づくり、美容づくりにうってつけの場所。雲仙・普賢岳や小岱山には気軽にトレッキングできるルートが整備されているほか、雲仙温泉街一帯で行われているノルディックウォークは、まちなみや観光スポットを訪ねながら健康づくりができる新しいアクティビティ。美と健康にぴったりの食が、島原と玉名の薬草を使った料理。玉名では複数の飲食店で「食べて健康になる薬草料理」を味わうことができる。仕上げは温泉。この地域の温泉はそれぞれに泉質が異なり、湯巡りをすれば、いろんな効能が。美肌の湯として知られている玉名温泉、島原温泉は特に切傷、火傷、慢性皮膚病に効果があり、強い酸性の雲仙温泉は殺菌効果があり、小浜温泉は塩分が多めで筋肉痛、神経痛などにいいとされている。

のんびり、ゆっくりと自然と一体となり、そして自然の恵みである温泉や食を感じること。それが、自然や大地の教えに習って、心身ともに健康になる、きれいになる現代流の湯治、有明・島原流のヘルス&ビューティーズムなのだ。

普段食べるもので体の中から キレイに なりませんか

小岱山薬草の会

会長 宮永マズ子さん
みやなが まずこ



薬草学の第一人者で崇城大学薬学部の上光太郎教授と出会い、同大の薬草園でボランティアをしていた。当時、玉名市と崇城大学が連携して行った事業の一環で「小岱山薬草の会」が設立されると、中心になり薬草料理の開発や地域交流などの活動を行ってきた。

『薬草と温泉の郷・玉名』を掲げ、地元で採れる薬草を使った料理と温泉の効能を利用したヘルス&ビューティーズムを打ち出している玉名市。新幹線開業に合わせて新玉名駅に発信拠点の『薬草ダイニングTampopo』がオープンし、平成24年(2012年)には、第1回目の『全国薬草シンポジウム』が開催された。



「普段食べるもので健康に暮らすことが、皆さん生きる上で必要じゃないですか？体に良い物を食べて健康に

なるのが一番の方法なんです。今は売るために添加物を入れたり、栄養より形やサイズを重視した野菜が作られたり、必ずしも食べて体に良いとは限らないんです。だから薬草を食べることが必要なんです。皆さん身近にある薬草を今まであまり食べてこなかった」

薬草料理のレシピを開発したり、葉っぱビジネスで地域おこしをする徳島県上勝町との交流など、薬草の普及、認知に情熱を傾けてきた。

今は「薬草ダイニングTampopo」(観光ほっとプラザたまらら内)以

外に、市内の飲食店で薬草料理を提供していただいています。平成27年(2015年)には島原で薬草シンポジウムが開催されますので、さらに盛り上げていきたいですね」

薬草料理と温泉で、地域の方や訪れる人々が健康で美しくなることを願う宮永さんの想いは、着実にこの地に広がっている。

■お問合せ

薬草ダイニングTampopo
(観光ほっとプラザたまらら内)
TEL 09688-57-96663

現代の”湯治“をゆっくり 楽しみませんか

湯治のお宿 雲仙 富貴屋

支配人 廣瀬 竜太さん
ひろせ りゅうた



雲仙地獄のすぐ隣に建つ富貴屋の支配人。自身も朝7時から行うウォーキングでガイドをしている。「来年は屋のツーリズムを計画していて、小浜や瑞穂町にある岩戸神社周辺と諏訪の池など、島原半島の色々な場所へ行く予定をしています」

明治から大正時代に外国人の避暑地として栄え、泉質の良さでも知られる雲仙温泉。今、新しい取り組みとして、毎朝地元の旅館が誰でも参加可能な観光ガイド付きのウォーキングを行い、健康や美容を意識した温泉の過ごし方を提案している。

「島原半島には3ヶ所温泉地があるのですが、島原は炭酸泉、雲仙は硫黄泉と単純酸性泉、小浜はナトリウム塩化物泉などそれぞれ泉質が異なります。50kmくらいの狭い範囲で3つの違う泉質があるのは世界的に見ても珍しいんですよ」



雲仙地獄

雲仙をまるごと体験して 体も気持ちもリフレッシュ

雲仙温泉は、最初修験道の霊山として開山し、戦国時代まで1000人程が修業を行っていたという。島原の乱後に温泉地が復興され、明治から大正期には避暑地として栄えた歴史もある。また湖や山など豊かな自然があり、近年はガイドツアーに注目が集まっている。

「雲仙の特徴は、火山なのに普賢岳の山頂まで木が生えているんです。荒涼としたイメージの地獄でも、紅葉が綺麗なんですよ」

「春、雲仙にはたくさん花が咲き、特にミヤマキリシマやヒカゲツツジが綺麗です。夏は昔から避暑地で、平均気温23度ほど。滝や湖に行くのが良いですね。秋はもちろん紅葉。仁田峠も良いですし、普賢岳の近くの鬼人谷という登山でしか行けない場所は、裏紅葉スポットと言われています」

す。冬は霧氷がとっても綺麗です」

植物や生き物が多く、四季折々の表情が楽しめる雲仙。佐々木さんは手軽に楽しめるよう、ガイドコースを設定している。

「例えば絹笠山に行く絶景ガイドコースでは、360度広がる大パノラマから小浜温泉や橘湾に落ちる夕日が見られて綺麗ですよ。また、滝を見に行くコースや湖を散策するコースなどもあります」

「最近では、地獄のナイトツアーという、夜に明かりが無い雲仙地獄に、皆でライトを持って探検気分で行くツアーが人気です」

土地の歴史や自然など、ガイドと回ること深く知り、雲仙の新しい姿を再発見することができます。

■お問合せ

雲仙ガイドさるふあ

TEL 0957-731-2626

「誰でも参加できる2〜3kmのウォーキングを毎朝行っていて、1時間くらい時間をかけて雲仙の自然や今まであまり行かれなかった名所などに掛けています。半年間で約2000名が参加し、年齢層も20代から60代まで様々です」

「館内に整骨院もオープンして、雨の日はストレッチの指導を行うなど、温泉と運動を組み合わせた滞在をご提案しています」

現在は食事にも島原半島の新鮮な野菜を使うなど、雲仙温泉でのヘルスツーリズムの幅をさらに広げている。

■お問合せ

湯治のお宿 雲仙 富貴屋

TEL 0957-731-3211



雲仙ガイド『さるふあ』
代表 佐々木 雅久さん
ささき まさひさ

東京でイベント企画の仕事をしていた佐々木さん。帰郷後に歴史好きが高じ、地元の講習会に参加するようになり、2007年に雲仙ガイド『さるふあ』を立ち上げた。「雲仙ってそういう場所だったんだ!と思うガイドをします。気軽に来て散策を楽しんでください!」

玉名市



薬草ダイニング Tanpopo
(観光ほっとプラザたまらら内)
玉名で採れた薬草を使った料理や飲み物、スイーツが楽しめる。
☎ 熊本県玉名市両迫間308(新玉名駅内)
☎ 0968-57-9663
☑ 有 ☑ 有

玉名市



立願寺公園 (しらすぎの足湯)
足湯につづく足ツボを刺激する路や女性用の簡易更衣室も完備。
☎ 熊本県玉名市岩崎385-1
☎ 0968-74-2961(玉名温泉観光旅館協同組合) ☑ 有 ☑ 有

島原市



旧島原藩薬園跡
国指定史跡で、日本三大薬園跡の一つに数えられる。
☎ 長崎県島原市小浜町4703
☎ 0957-64-5473(島原市教育委員会)
☑ 有 ☑ 有

雲仙市



雲仙温泉街一帯
ノルディック・ウォークなどのヘルスツーリズムが体験できる。
☎ 長崎県雲仙市小浜町雲仙
☎ 0957-73-3434(雲仙温泉観光協会) ☑ 有 ☑ 有

雲仙市



普賢岳新登山道
普賢岳噴火で閉ざされていたルート新たに整備した登山道。
☎ 長崎県雲仙市小浜町雲仙
☎ 0957-73-3434(雲仙温泉観光協会) ☑ 有 ☑ 有



荒尾干潟

日本一の干潟、宝の海 有明海とともに生きる

潮の干満の差が大きく、日本有数の干潟が広がる有明海は、魚介類が豊富に獲れる宝の海である。古くは九州と大陸を結ぶ海の道、今でも、長洲港と多比良港は有明フェリーで結ばれ、交通路としても重要視されている。干潟の海では、アサリ貝が豊富に獲れ、島原周辺では古くからフグなどの魚介類が豊富に水揚げされ、海苔や海藻類も上質なことで全国に知られるほど。そして干潟は、鳥たちの楽園でもある。荒尾干潟は春には数千羽におよぶ渡り鳥が飛来、ラムサール条約湿地に登録されている。干潟では江戸時代から大規模な干拓が行われてきた。玉名市や長洲町の海岸部は、以前は海だった場所。昭和の国営干拓事業までの干拓工事で広い土地が作り出され、今ではイチゴ、トマトなど熊本県を代表する農産地になっている。

この地域ならではの風土を形作っている有明海。大切な海と向き合って暮らしてきた人々や様々な生き物の営み、その中から生まれてきた文化、食を辿る旅、人と自然をつなぐ、命の物語である。

上質の海苔、アサリ貝が採れる干潟の海と暮らしてきました

荒尾漁業協同組合
代表理事組合長 矢野浩治さん



荒尾市に生まれ、海苔の養殖歴40年以上の大ベテラン。「冬の時期に天気が悪くて海に出られないと、海苔の収穫ができずヤキモキします。今後は、荒尾で獲れた海産物を一般の方に販売する物産館のような施設を作りたいです」

有明海の中央部東側に位置する荒尾干潟。南北約9.1km、東西の最大幅は約3.2km、面積が約16556haあり、単一の干潟として国内有数の広さを誇る。アサリやマジャクなど生物も多様で、大きな干満の差を利用した海苔の養殖も早くから行われてきた。

12月の初旬に訪れた荒尾漁協はちょうど海苔の収穫が始まり、出荷作業の真っ只中。

「今から3月までが海苔の最盛期で、冬場気温が下がった頃に収穫します。海苔は夜に収穫するほうが綺麗で、昼に採るものに比べ等級が全然違います」

「荒尾漁協では海苔とアサリが主産品で、有明海沿岸で生産される海苔は、全国で穫れるものの半分ぐらいあります。潮流が瀬戸内海などに比べると緩やかで、育つ海苔が柔らかいんです」

よ。養殖に適していますね」

干潟にはアサリも多く、荒尾で「マジャク」と言われるアナジャコも昔から獲られている。

「水温が下がるとマジャクは獲れなくて、5月から9月ぐらいが時期になります。筆を穴に入れて釣る有明海の伝統漁法で、毎年7月頃に荒尾市が開催している『マジャク釣り大会』には、1000人ぐらいが集まりますよ。やってみるとなかなか難しくして面白いですよ」

潮の流れや干満の差、広大な干潟など有明海の特徴を活かし、海と暮らす人々。大切に守られた荒尾干潟には渡り鳥も多く飛来し、国際的に重要な湿地として平成24年(2012年)『ラムサール条約湿地』に登録された。

■お問合せ

荒尾漁業協同組合

TEL 0968-6210023

玉名市



旧玉名干拓施設

江戸や明治時代の石積みの堤防跡が玉名市横島町内には残されている。

☎ 熊本県玉名市横島町
☎ 0968-75-1136 (玉名市文化課)
☎ 無 ☎ 無

玉名市

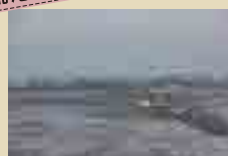


ふるさとセンター Y-BOX

イチゴ、トマト、ミニトマトなど地元の新鮮な青果物が揃う。

☎ 熊本県玉名市横島町横島1716
☎ 0968-84-3700
☎ 有 ☎ 有

荒尾市



荒尾干潟

国内有数の広さを持つ干潟。ラムサール条約湿地に登録された。

☎ 熊本県荒尾市
☎ 0968-63-1386 (荒尾市環境保全課) ☎ 有 ☎ 無

島原市



島原漁業協同組合販売所

水揚げされたばかりの有明海の魚介類を買うことができる。

☎ 長崎県島原市湊新地町452
☎ 0957-62-4326
☎ 有 ☎ 無

有明海は、たくさんの魚介類を育むゆりかごです

6月に新しく組合長に就任した吉本さん。島原漁協では手軽に味わえるよう加工品の製造・販売にも力を入れており、調理資格があるトラフグは捌いたものや煮付け、湯引きなどで販売。アワビや独自製法の魚の一夜干しなどもあり一般販売もしている。

島原漁業協同組合
代表理事組合長

吉本 政信さん
よしもと せいしん



年間を通して多種多様な海産物が獲れる島原半島は、時期ごとに違う魚が行われ有明海の豊かさを感じられる。また、昔からトラフグのことを「ガンバ」と呼び、様々な料理で食べられ、近年特産品にも認定されている。

「同じ有明海沿岸で熊本県の方と大きく違うのは、島原は漁船漁業が多いことですね。魚の種類が多く、釣り、刺し網、タコ壺、かご、投げ網、底引きなどがあります。1年を通じ魚に応じた漁法があるので、必然的に漁種も多くなったのではないのでしょうか」

「7月〜10月は、天然のクルマエビ、ガザミ、真タコ等の魚が最盛期で、冬場の11月〜2月はヒラメ、古ヒラメ漁が主流となっています。他に海苔や昆布、ワカメなどの養殖もあり、島原で「ガンバ」と呼ばれるトラフグを陸上で養殖したり、アワビの養殖にも力を入れています」

多彩な海産物が獲れる島原。そこには半島の成り立ちが関係している。

「有明海は4県の川の終点で、川からミネラルを含んだ水が流れ込み、反時計回りの強い潮流で攪拌されます。

南には早崎瀬戸という潮が速い場所があり、島原半島は出っ張っていて、ちょうど潮がぶつかる場所なので良い漁場ができ、様々な魚が集まりやすいという特性があると思います。また、火山活動でできた小島も良い漁場になっている要因だと思います」

※1 島原ではフグのことを「がんば」と呼ぶ。江戸時代にフグが猛毒を持ったため、フグ食は禁令になったが、危険を顧みず美味しいフグを食べる人が後を絶たなかった。そうしたことから、棺(か)んば(を)用意しても食べたいという意味で「がんば」と呼ぶようになったといわれる。

「お問合せ
島原漁業協同組合
TEL0957-63-11469

ふるさとセンターY・BOX
所長 田上達也さん
たのうえ たつや



平成5年にオープンした『ふるさとセンターY・BOX』の所長。Y・BOXでは地元の新鮮野菜や特産品に加え、それらを使った加工品も多数揃う。12月〜5月にかけてイチゴ狩りも楽しめ、大きくて甘い完熟イチゴを時間無制限で食べ放題できる(小学生以上1,300円、幼児500円※要予約)

有明海のかげはしとして貢献していきたい

有明フェリー(有明海自動車航送船組合)
総務課 前田和徳さん
まへだ かずなり



有明海を挟んで長崎と熊本で一番近い多比良と長洲を結ぶ航路として、昭和33年(1958年)に就航した『有明フェリー』。産業と人の交流を担い、長洲〜多比良間を45分で結ぶ。「両岸の交通と文化の橋渡しに貢献できればと思います」

干潟により育まれる多様な生態系を持つ有明海。小型イルカのスナメリやカモメを始めとした多くの渡り鳥も飛来し、間近に観察することができ。島原と熊本を結ぶフェリーでは、冬場、人懐っこいカモメと戯れることができ、観光資源にもなっている。

「平日はビジネス、土日曜はレジャーで利用されるお客様が多いですね。パリアフリー船の『有明さぼろ』と『有明みらい』は、客室の窓が大きく採られ、客室最上階の展望デッキから眺める九州の山々に囲まれた有明海の眺望は素晴らしいですよ」

「冬場は海が特に綺麗で、沈む夕陽に映える海苔のびと港の眺めにはロマンを感じさせます」

山々の姿や港の景色も美しく映える

海には、多種多様な生物が見られる。「カモメは10月末頃からゴールデンウィーク前まで見られ、展望デッキなどでは手渡して餌やりが出来るので、子供連れの家族の方や修学旅行生などに大変喜ばれます。餌やりが楽しみで乗られる方もいらっしゃる」

「スナメリも運が良ければ見ることが出来ますよ。人前になかなか姿を見せないですが、ときには10頭ぐらいの群れに遭遇することもあります。推測ですが数家族が住みついているんじゃないでしょうか」

多くの干潟があるからこそ多彩な生物が見られる有明海。海に携わる地域の人々が環境と生き物を守り、新たな価値を見出している。

「お問合せ
有明フェリー
TEL0957-78-33558

干拓地のミネラル分で最高のイチゴ、トマトができます

江戸時代に加藤清正により始められた玉名市横島町の干拓事業。昭和42年(1967年)の国営干拓事業まで400年に渡り工事が繰り返され、1457haに及ぶ広大な耕地が生まれた。現在、その耕地ではイチゴやトマトが栽培され一大産地となっている。

「400年前に加藤清正公が干拓を始めた頃、この辺りは湿地帯が広がり、『横島』という名前の通り島だったんです。それで清正公が菊池川の流れ

を変え、潮受け堤防を作って干拓を始め、昭和の頃まで徐々に広がっていきました」

干拓によって生まれた土地には家々や畑が広がり、以前は海だったところは想像し難い。

「横島町の土地柄、海辺なので夏はジメジメと暑く冬は比較的暖かいんです。特に冬は、平野なので朝晩が放射冷却により冷え込み、日中は日当たりが良く暖かいですよ。それで今から30年ほど前、最初イチゴを栽培したところ施設園芸に土地が合うのが分かり、その後トマトやミニトマトの

栽培が始まりました」

「この辺りの土壌はもともと潟地で、ミネラル分が豊富な土地のためイチゴやトマトの栽培に合っているんです。また、生産者も勉強熱心でこだわりの強い方が多く、全体のレベルが高いので横島のイチゴやトマトが有名になったのではないのでしょうか」

気候や土壌など土地を活かした農業と人々の努力により、横島町は豊かな場所へと変わっていった。

「お問合せ
ふるさとセンターY・BOX
TEL0968-84-37000